

令和 8 年 7 月 2 2 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立山前小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成 1 5 年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

①計画通り実施できている

- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

①実施している

- ・実施していない

(3) 自校における評価

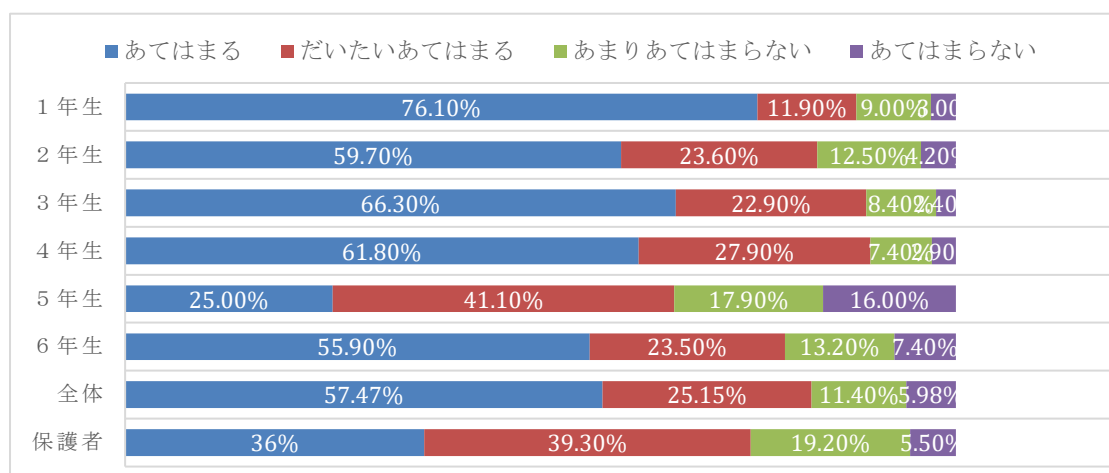
指導の方針	具体策	評価
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。(知・技)	英語の音声、発音、リズムを習得させる。(教師と子ども、子ども同士での活動を通した学び合い。)	3. 12
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を養う。(思・判・表)	コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて学習した表現を使い、自分の考えや気持ちなどを伝えさせる。	3. 15
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(主体性)	児童にとって興味・関心がある年中行事や外国の文化等を積極的に取り上げるようにする。	3. 12

教師と児童、児童同士での活動を通して、英語でのやりとりを楽しんで取り組む姿が見られた。低学年では、基本の文型を使いやりとりをした。中学年ではその体験を生かして会話を楽しみ、高学年では自分の考えや思いを伝えるというように段階的に取り組んでいる。特に高学年では、英語チャレンジ DAY として、より実践的に英語を使ってコミュニケーションを取る活動に取り組み、楽しみながらスキルアップも図っている。全学年を通して、挨拶や自己紹介など身近で簡単な事柄を、外国語で聞いたり話したりすることから、自分の考えや気持ちなどを外国語で伝え合う活動に一層力を入れて取り組みたい。

(4) 学校関係者による評価

①【児童】英会話の授業は楽しいですか。

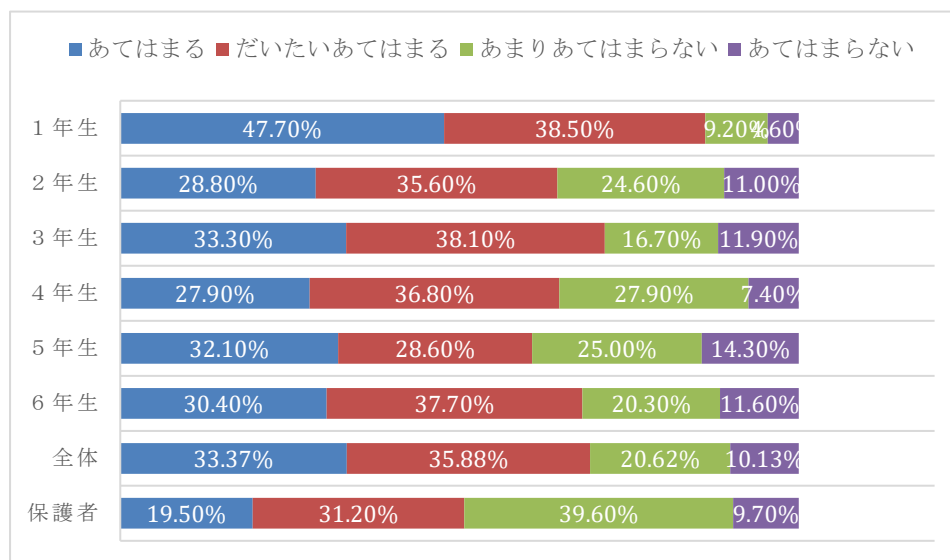
【保護者】お子さんは、英会話学習を楽しんでいますか。



【傾向】全体の82%の児童が英会話を楽しんでいると回答している。学年により差はあるが、多くの児童が楽しんで学習している様子である。保護者の75%くらいが、子どもが楽しんでいる様子であることを回答している。

②【児童】英語を聞いて、だいたいの内容がわかりますか。

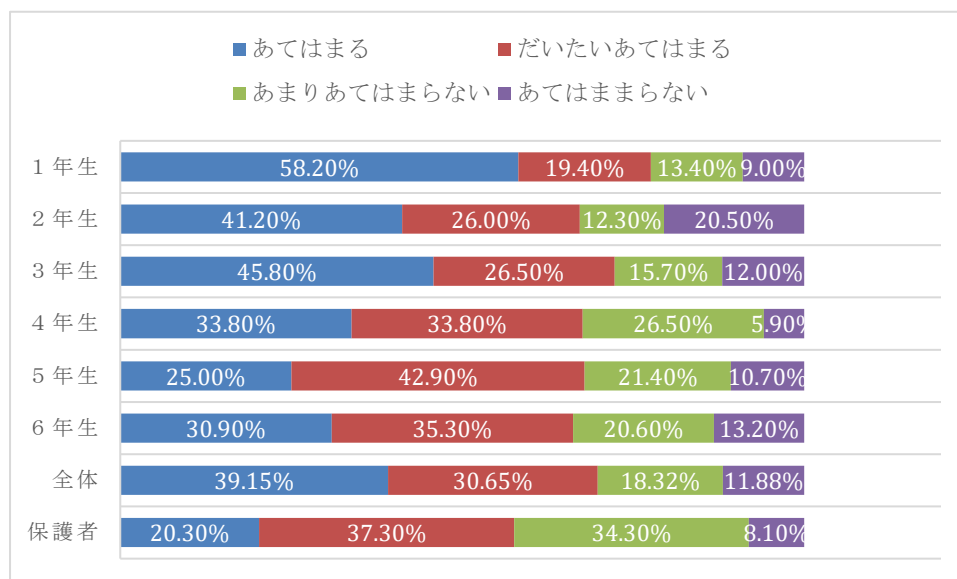
【保護者】英会話学習により、お子さんは英語に慣れたり、親しんだりすることができるようになりましたか。



【傾向】英語の活動を楽しむ児童は多いものの、英語を聞いて分かるという技能的な部分では、全体の70%程度にとどまっている。1年生では86%の児童が分かるかと答えていることから、英会話の入口としてはよいと考えられる。保護者が捉えているよりも、児童の実態としては分かっていると答えた回答が多い。

③【児童】英会話学習により、外国の言葉や文化をもっと知りたくなりましたか。

【保護者】英会話学習により、お子さんは外国の言葉や文化に関心をもつようになりましたか。



【傾向】全学年で「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると約70%である。どの学年も同じような傾向にある。外国の言葉や文化を理解することで、人権感覚も磨かれていくと思われる。今後も力を入れたい活動である。

3. 実施の効果及び課題

英会話学習を楽しみ、外国の言葉や文化にさらに興味をもつ児童が多く、「英語に慣れ親しむ」面において効果的な取組ができたと思われる。ALT の効果的なパフォーマンスや、体験的な活動を取り入れた授業展開の工夫により、どの学年でも楽しく活動できた結果と考えられる。多様な国の ALT と英会話を通してふれ合う英語チャレンジ DAY も、効果的な取組の一つと考えられる。

また、英会話学習で得られる交流活動は、多くの外国籍児童のいる本校にとって特に有意義なものである。英会話学習を通して外国の文化や言語も大切にできる心を育てることに繋がっていると思われる。

保護者の意識としては、どの視点においても「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と3割～4割近くの方が感じられている。英会話学習に対して高い期待を寄せてくださっていることがうかがえる。児童が学んだことを家庭や地域でも生かすことができるような取組を考えていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

子どもたちは、英語に慣れ親しむ、外国の文化や多言語への興味も高まっている。それに比べると、英語を聞いて内容が分かるということには、まだ自信がもてない様子がうかがえる。楽しく活動することを繰り返しながら、聞く・話すなどの技能についても自信がもてるような取組をしていきたい。

さらに、保護者の期待に応えるために、学校における英会話学習の取組の様子を参観していただいたり、お便りやブログ等で発信したりしていきたい。また、小中一貫教育の取組として、中学校とも連携しながら授業作りを工夫していきたい。